

平成 30 年度放射線安全取扱部会年次大会

(第 59 回放射線管理研修会) アンケート調査のまとめ

平成 30 年度放射線安全取扱部会年次大会実行委員会

平成 30 年度放射線安全取扱部会年次大会は平成最後の大会として、平成 30 年 10 月 25 日(木)、26 日(金)の 2 日間にわたって、仙台銀行ホール イズミティ 21 (仙台市泉区) の大ホールを中心に開催された。大会テーマは【久待扶搖萬里風 (ひさしくまつふようばんりのかぜ), 平成の終わりに】であった。

年次大会実行委員会では、参加された方からのご意見やご要望を把握するため、今年度もアンケート用紙にご記入をお願いし協力していただいた。今回は参加された方 342 名のうち 154 名から回答を得た (回答率 45.0%)。以下にそのアンケート調査の概要をまとめる。

1 年次大会について

年次大会で実施したイベントや大会の運営について、その満足度を 5 段階 (5:満足, 4:やや満足, 3:普通, 2:やや不満足, 1:不満足) で評価していただいた。また、大会についてコメントをいただいた。

図 1 にイベント・大会運営の満足度を各項目の評価点数 (平均値) で示した。

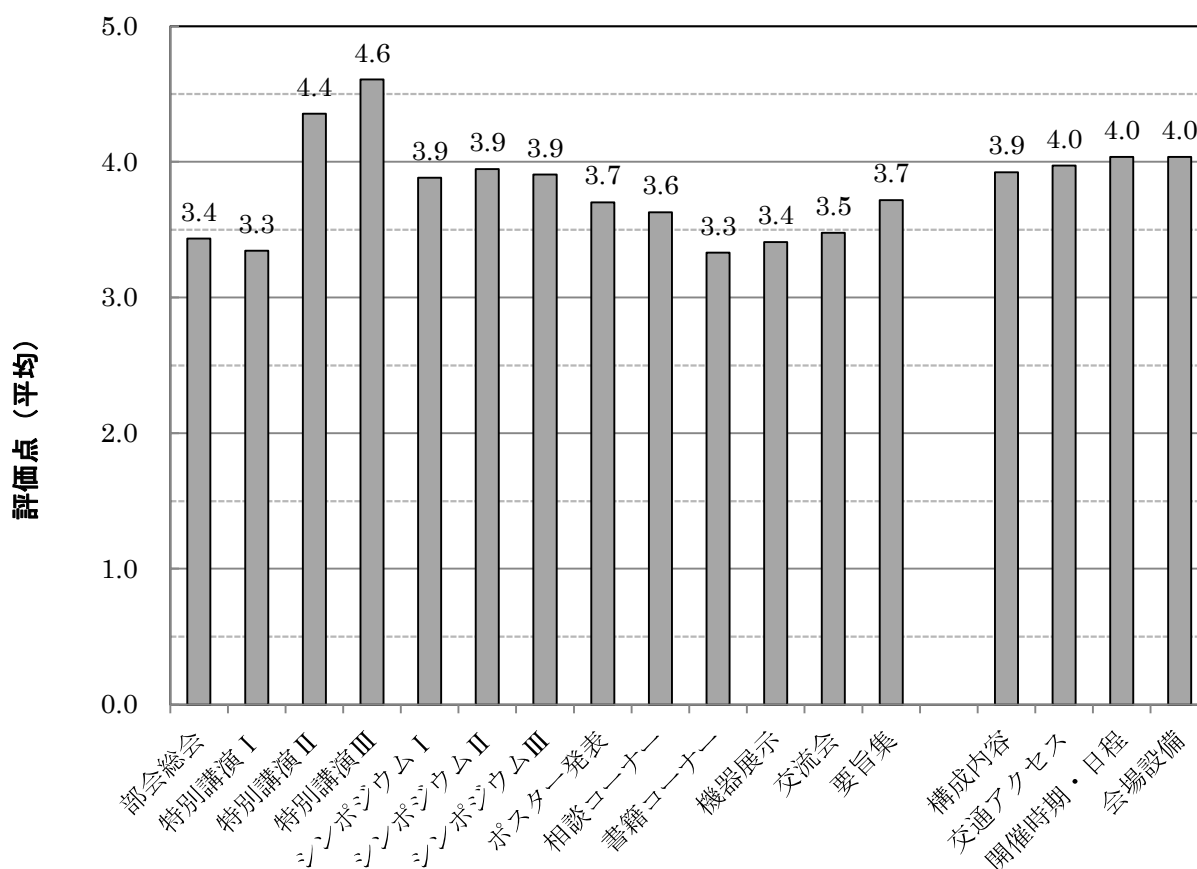


図 1 イベント・大会運営の満足度

1.1 部会総会

評価点は 3.4 で、ほぼ前回の値(3.5)と同様であった。

1.2 特別講演Ⅰ

特別講演Ⅰでは、例年通り原子力規制庁の鶴園孝夫氏から「**放射線障害防止法普健の最近の動向**」について講演をしていただいた。放射線障害防止法の改正が来年に迫っていることから、放射線施設の安全管理や最新の放射線規制の動向を中心とした講演であった。「講演時間の都合で質疑時間が無かったのは残念」とのコメントがあった。

評価点は平均で 3.3 であった。

1.3 特別講演Ⅱ

特別講演Ⅱでは、越村俊一氏（東北大学災害科学国際研究所）から「**東日本大震災の教訓と巨大災害への備え**」として講演していただいた。平成 30 年度は大きな自然災害が生じた年でもあり、放射線施設においても災害への対応を十分に検討する必要がある、参加者も興味のある内容であった。このため、評価点は 4.4 と高い値となった。

1.4 特別講演Ⅲ

特別講演Ⅲは、川島隆太氏（東北大学加齢医学研究所）により、「**スマート・エイジング～脳を鍛えて健康寿命を延伸する～**」の講演をしていただいた。川島先生の講演のみではなく会場の聴講者も一緒に参加するような内容もあり、「非常に面白くためになった」、「素晴らしかった。今後の生き方が変わってしまうくらいためになるお話をいただき、こういう機会を持っていただき感謝する」とのコメントがあった。

評価点が 4.6 と高い値であり、4 以上と評価した方が 70%であったことから、聴講された方のほとんどが満足されたと思われる。

1.5 シンポジウムⅠ

シンポジウムⅠでは、「**新しい放射線安全管理のフレームワークに向けて**」と題して、企画専門委員会を中心に法令改正、拠点化構想、知識の伝承など主任者と放射線施設を取り巻く諸課題についての報告があった。評価点は平均で 3.9 であった。

1.6 シンポジウムⅡ

シンポジウムⅡでは、「**～平成を振り返る～「福島原発事故から 7 年以上経過した福島の今」**」として、福島第一原子力発電所の廃炉、海産物の放射能汚染の現状と沿岸漁業の復興や全町民避難から復興などの報告があった。

このシンポジウムに対しては、「福島の現在のポジションの各講演も非常に役立った」、「震災に関する話を聞くことができたのがよかった。震災時の放射線施設運営に関する話があるとさらによかったと思う」などのコメントが寄せられた。評価点は平均で 3.9 であった。

1.7 シンポジウムⅢ

シンポジウムⅢは、「**加速器の歩み：最初の一步から次の時代に向けて**」として、さまざまな分野での加速器利用が広がるなか、NMCC（仁科記念サイクロトロンセンター）の果たしてきた役割と新しく整備される東北放射光施設についての講演があった。

評価点は平均で 3.9 であった。

1.8 ポスター発表

ポスター発表は 33 件の発表があり、評価点は平均 3.7 で、ほぼ前回の値(3.8)や前々回の値(3.8)と同

様であった。

「発表者間が近く、タームを別にしていただけが込み合っている印象だった」、「ポスター会場が広くてよかった」などのコメントがあった。

1.9 相談コーナー

相談コーナーには 20 件近くの相談が寄せられた。評価点は平均で 3.6 であり、これもほぼ前回の値 (3.7) や前々回の値 (3.5) と同様であった。

1.10 書籍コーナー

評価点は平均で 3.3 であった。これも前回の値 (3.2) と同様であった。

1.11 機器展示

機器展示は大ホール 2F ホワイエに設置したが、「機器展示が 2F でアクセスしにくかった(人も居ないようだった)」とのコメントがあった。参加者への案内が不十分であったことは反省点であろう。評価点は平均で 3.4 であった。

1.12 交流会

今回はポスター会場と同じ展示室で行った。「食べ物が少なかった」、「ほとんど食べられなかった」、「食事が少なく物足りなく思いました」や「交流会では食べ物が少なすぎた」などのコメントが多く寄せられた。交流会への参加者数を 170 名程度と見込んで手配したものの、ボリュームに満足していただけなかったことは大きな反省点である。

評価点は平均 3.5 であり、前回 (3.9) より低かった。

1.13 要旨集

評価点は平均で 3.7 であった。これも前回の値 (3.7) と同様であった。

「発表スライドを要旨または別刷りで配付してほしい」、「資料集は発表される PDF を全て入れてほしい。持ち帰って社内で展開したい」、「要旨集の PDF 版もあるとありがたいです」などのコメントがあった。

1.14 イベントの構成内容

「大学以外の事業所(特に中小規模)にスポットを当てた発表」の要望や、「シンポジウムで全般に討論の機会があるとよかった」とのコメントがあった。一方、「プレイベント(東電福島第一原子力発電所視察会)が非常に興味深く、また、現状が理解できよかった」との労いのコメントもあった。評価点は平均 3.9 で、ほぼ前回の値 (4.0) や前々回の値 (3.8) と同様であった。

1.15 交通アクセス

会場が仙台市営地下鉄出入り口に近ことから、評価点は平均 4.0 と高くなっており、前回の値 (2.6) より大幅に上昇した。

1.16 開催時期や日程

「開催時期を 11 月初旬くらいにしていただければ幸いです(科研費申請の締め切り時期と重なるので)」との意見があった。また、「開催予定をもっと早く協会 HP に出してほしい(時期と開催都市名)」というコメントがあった。今回は前年の 7 月に会場の仮予約をしておき、HP の開催案内 5 月より早めの掲載が可能であったかもしれない。

評価点は平均で 4.0 であった。これも前回の値 (3.8) とほぼ同様であった。

1.17 会場の設備

今回の主会場である大ホールは定員約 1400 席と大きな容量があったことから、「便利な会場でゆった

りと聴講できたので良かった」、「会場がゆったりしていて大変良かった」との意見や、「広くゆったりしていて快適な会場でしたが、コストを考えるともう少し小さいホールでも大丈夫かとも思いました」との意見があった。一方、「足元が伸ばせる会場を希望」とのコメントがあったが、年次大会を開催する会場は一般的にコンサートや劇場などの用途となるため、座席寸法にそれほど余裕がないのは致し方ないと思われる。また、「スクリーンが大きく見やすいのですが、ポインターの光が弱く指している場所が分かりにくかった」との指摘があった。

「参加人数に対して会場が広すぎる」との意見もあったが、会場の選択肢がそれほど多くはない（特に地方大会の場合）ことから、会場の客席容量を適切に選ぶことが難しく、致し方ない面もあるものと思われる。

会場の設備として、「会場に無線 Wi-Fi (FREE SPOT)があるとありがたかったです」や「Free Wi-Fi ほしい」とのコメントがあったが、開設してから年数の経った施設では通信機能が追いついていないのが現状である。

評価が 4（やや満足）以上の方が約 70%となり、評価点は平均で 4.0 であった。

1.18 その他の意見

その他の意見として、次のようなコメントの記載があった。

「事前申し込みの名札に印刷レイアウトの、アイソトープ協会や年次大会の文字を小さくし、「所属」欄を大きくしたほうがよい」、「参加費用が高い。九州などからの参加者は大変である」、「朝が遅いのはよい」、「受付がスムーズだった」、「カメラのシャッター音が気になる」

これらの意見は次の大会への引き継ぎ事項としたい。

2 放射線安全取扱部会の活動について

2.1 興味のあるテーマについて

参加者に放射線安全取扱部会の活動内容について興味のある項目を記入していただいた。図 2 に記載項目の多かった順に並べて示した。これによると、上位 3 件は「教育訓練」、「緊急時の対策」、「放射線利用」であった。記載件数は異なるものの、前回の年次大会と全く同じ項目であり順番も同じである。次回以降の大会でのシンポジウム等を計画する際の参考になると思われる。

2.2 教育訓練講習会について

教育訓練講習会の開催頻度が「適切」とされたのは記載件数 102 件中 90 件で 88%であった。一方、「少ない」と記載されたのは 12%であり、事業所数の多い関東や関西地区では開催数を増やすことも検討してはいかがであろうか。

なお、講習内容が「適切」とされたのは記載件数 96 件中 95 件で 99%であった。

2.3 部会の活動全般について

「年次大会は横のつながりとして交流を深めることができるよい場だと思います。ただし、個々には使用形態が異なるので（非密封、密封、加速器、医療、工業など）それぞれ議論できる場を設けていただければと思います」とのコメントがあった。会場の制限もあるが、比較的小さな教室又は会議室が複数手配できるのであれば、利用形態や規模の大きさなどに分けてセッションを計画するのも一つの方法かと思われる。

「部会の会員数が減少していることが心配です。今回は一般公開講演がなかったので、どうしてかと思いました」との意見があった。当初、一部の講演を一般公開する計画もあったが、一般の方への PR

の方法に限られることや座席配置，参加受付などの管理が難しい割には過去の大会実績でもあまり参加者数が見込まれないことなどを考慮して，一般公開を中止することとなった。

また，「文部科学大臣表彰を受けている先生に功労賞をさしあげるべきではない」との意見があった。

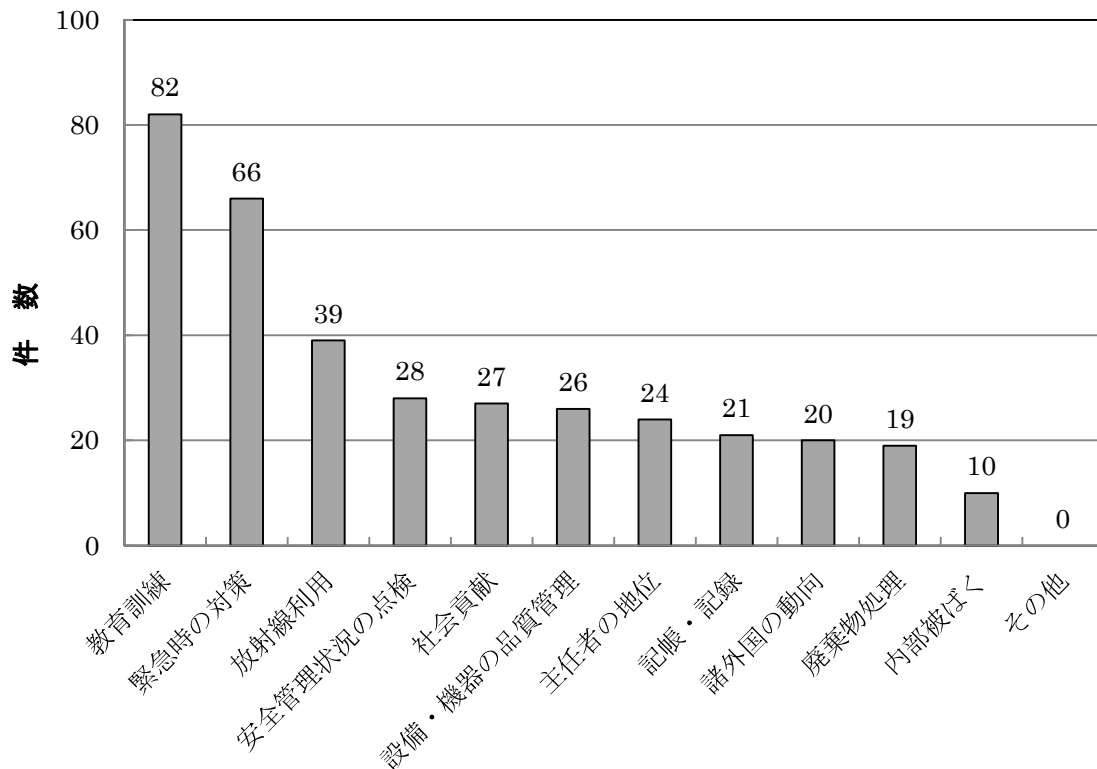


図 2 安全取扱部会活動での興味のあるテーマ（複数回答）

3 参加者について

3.1 年齢及び性別

参加者の年齢構成は，図 3 のように 30 歳代から 50 歳代が多く，全体(回答無しを含む)154 名の 75% を占めている。これは前回の年齢構成で 50 歳代以上が約半数であったのに比べて，多少若返りがあったことがうかがえる。

参加者の性別では，男性 117 名(76.0%)，女性 28 名(18.2%)，無回答 9 名(5.8%)であった。

3.2 所有免状及び身分

参加者が保有する資格では，図 4 に示すように第一種放射線取扱主任者が多く全体の約 8 割となっている。

参加者の身分では，図 5 のように多い順にそれぞれ「管理職」27.3%，「一般職」26.0%，「教育・研究職」22.1%であった。

3.3 参加する頻度

図 6 に示すように毎年参加される方が 56.5%であった。また，初めて参加された方は全体 154 名中 21 名で 13.6%であった。無回答を除いた 142 名では 14.8%で，前回の値(19%)より多少低下した。

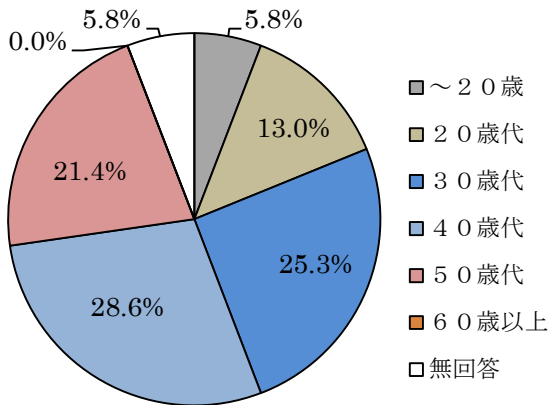


図3 参加者の年

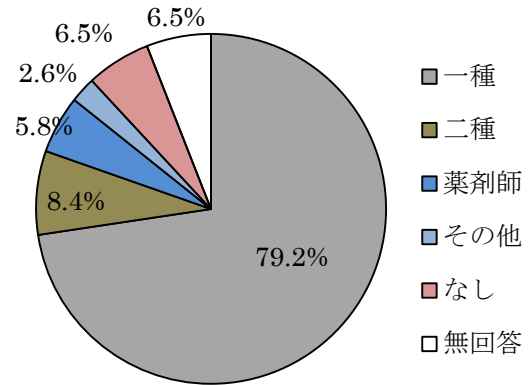


図4 参加者の所有

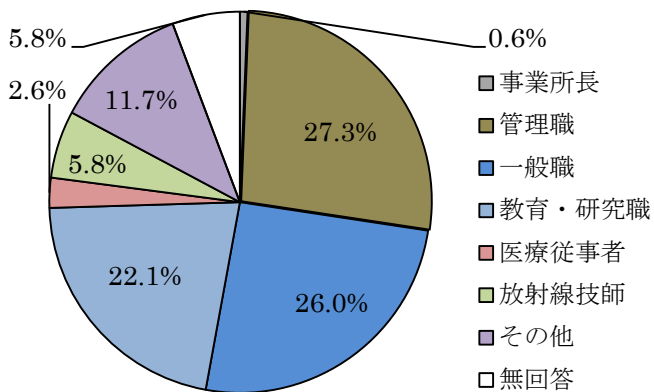


図5 参加者の身分

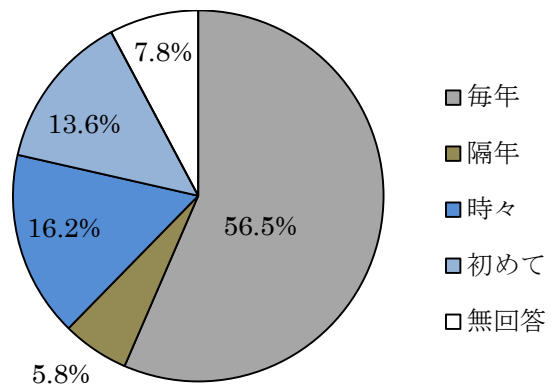


図6 年次大会への参加

4 所属事業所

4.1 事業内容

参加者の所属する事業所の事業内容は、図7に示すように、それぞれ医療機関が10.4%、教育機関が39.6%、研究機関が20.8%、民間企業が26.0%、その他が5.2%であった。

4.2 使用形態及び施設

事業所の使用形態は、図8のように許可使用が最も多く81.8%、届出使用が3.2%、販売業が1.3%、廃棄が0.6%、使用していないが5.2%であった。

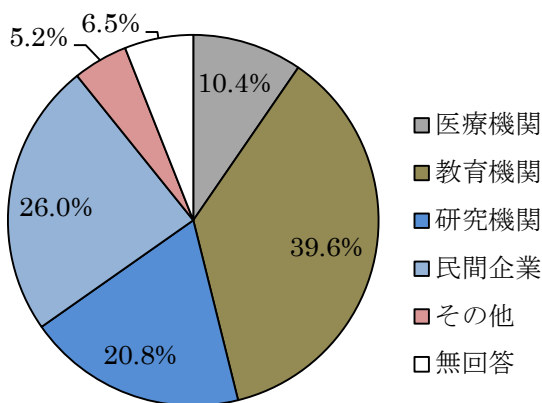


図7 事業内容

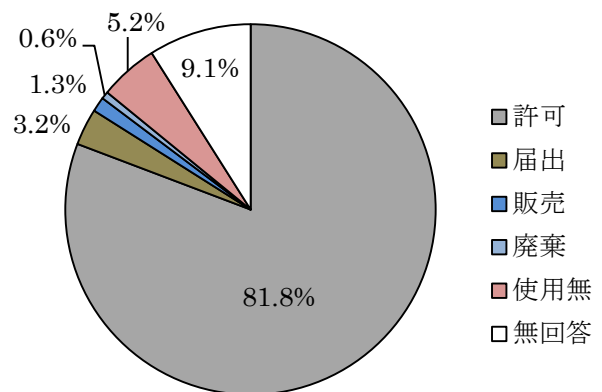


図8 施設

4.3 所在地

事業所の所在地は、図9のように、北海道1.3%、東北12.3%、関東32.5%、近畿18.8%、中部11.0%、中国・四国10.4%、九州5.8%であった。

4.4 放射線業務従事者数及び選任主任者数

事業所に所属する従事者数は、図10のように20人以下が25.3%、20人～100人が35.7%、100人～300人が16.9%、300人以上が11.7%であった。

また、選任されている主任者数は、図11のように1人が29.9%、2人が29.2%、3人が14.3%、4人が8.4%、5人以上が3.9%であった。

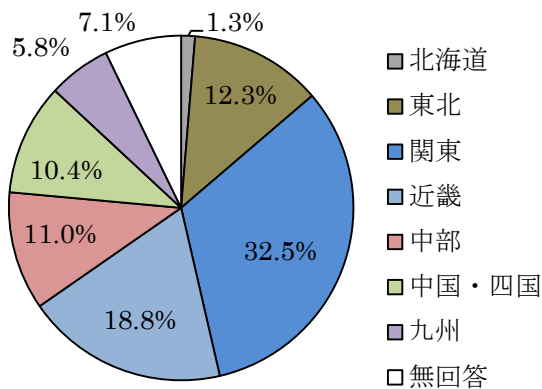


図9 所在地

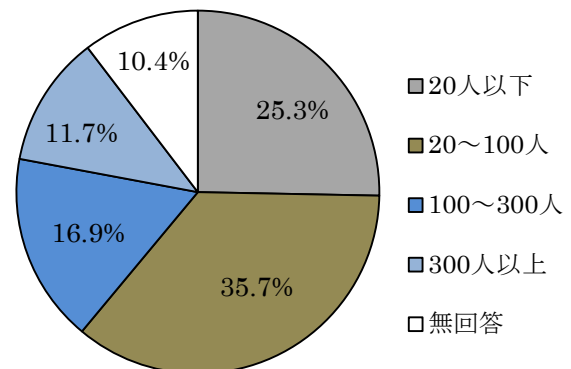


図10 放射線業務従事者数

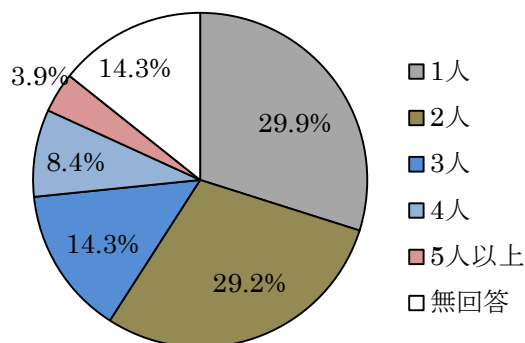


図11 選任主任者数

5 最後に

今回の年次大会が開催された2日間は、幸いにも好天に恵まれて仙台の町並みを堪能された方も多かったのではないのでしょうか。

参加された方が342名と、当初見込みの350名には若干届かなかったものの、ほぼ想定通りの年次大会だったと思っています。

今回の大会では、地元の企業を中心に協賛をお願いしました。協賛に快く応じていただいた団体、企業の方にお礼申し上げます。

参加された方からは大会運営に対して、実行委員会への暖かいご意見をいただきました。しかし、アンケートには記載されていないような至らない点多々あったと思われまます。いただいたご意見やコメントなどを次回開催の実行委員会に引き継ぎ、更に実りある大会となるよう願っています。

(泉 雄一)